

直方市立

# 直方東小学校

学校だより

1月号

文責 校長 波多野泰生

## ○新年あけましておめでとうございます

『新年、おめでとうございます』

あらためて、昨年中の保護者・地域の皆さま方の本校教育へのご協力・ご支援に感謝申し上げます。また、冬休み中は、おかげさまで全校児童が大きなケガや事故もなく過ごすことができました。ありがとうございます。今後も学校では、新型コロナウイルス感染症対策やインフルエンザ等の予防に最大限の注意をはらっていきたいと考えています。

さて、三学期が始まります。昨日から寒波の到来で雪が降るなか、児童たちが元気に登校し、「おはようございます」とあいさつする姿が見られたことを大変うれしく思います。三学期は今年度のまとめの学期でもあります。6年生にとっては、中学校に進学するための準備期間、1年生から5年生にとっては、それぞれ新しい学年に進級するための準備期間です。それぞれが目標や計画を立て、充実した楽しい学校生活を送って欲しいと願っています。そこで、放送による始業式では「**勇気と元気**」について話しをしました。

何事も新しく始めるときは、「**勇気**」が必要です。新しい世界に踏み出す勇気です。成功するだろうかという不安と戦う勇気です。人生に自動ドアやドラえもののどこでもドアはないのですから、自分でドアを開けてみようとする勇気を持つことが必要です。何か目標を立て、それを達成しようとするときも子どもたちには勇気がとても必要なのだと思います。その勇気はどこから生まれてくるのでしょうか？はじめから持っているのでしょうか？それとも特別なトレーニングを積んで身につけるのでしょうか？私が読んだ本には次のように書かれていました。『人間は、生まれてくるときに【**勇気**】と【**元気**】を持って生まれてくる。』というのです。すべての子どもたちに、嫌な算数、苦手な英語でも進んで学ぶ、自分の学級での役割や仕事は責任を持って最後まであきらめず努力をすることのできる【**勇気**】と【**元気**】があるはずです。さらに、世の中の形あるものは、使えば使うほど減っていきませんが、この【**勇気**】と【**元気**】だけは、不思議なことに、使えば使うほど増えていくし、使わないと減っていく性質があるのです。子どもたちには、その一歩を踏み出してほしいと思っています。小さいけれど確実な一歩を一人ひとりが勇気を持って踏み出せるように、東小学校の教職員一同、誠心誠意、今年度も努力してまいります。どうか今年もよろしく願いいたします。

## ○チューリップには種ができるのでしょうか？

春になると遠賀川の河川敷を彩るチューリップ畑。TVや雑誌でも盛んに紹介され、今では県内でも有名な直方市のチューリップフェアとなっています。そのチューリップなんですが、東小学校の1年生も昨年の11月にチューリップの球根を植えていました。

【裏面につづく】

また、校門横の花壇では、6年生がこまめに水やりをしてくれています。春にはいろいろな色の花を咲かせることでしょう。とても楽しみです。そこで、1年生の子どもたちにこんな問いを投げかけてみました。「チューリップには種ができるのでしょうか？」しばらく考えた後、聞いてみると、ほとんどの子どもが「チューリップには種ができない」という考えでした。その理由は「チューリップは球根を植えて芽が出てくるから」というものでした。中には「球根が種ではないのか？」と考える子もいましたが「球根は根の一部なので、種とは違う」と説明しました。そんな意見を聞いた後、もう一度聞いてみると、「種ができない」という子どもが更に増えました。調べたことなので自慢げに書きますが、実はチューリップ、花が咲き終わるとめしべが膨らんできて実ができ、やがてそこから種が出てくるらしいのです。つまりチューリップにも種ができるのです。この種をまくと発芽し、細かい葉が1枚出て10cmぐらいまで育ちますが、花は咲きません。しかし、土の中にマッチの頭ぐらいの球根ができるそうです。この球根を次の年に植えると、1年目より大きな葉ができ、球根も大きくなりますが、花は咲かないそうです。これを5年ほど繰り返すと、やっと花が咲くそうです。つまり栄養分が球根に十分たまらないと花をつけることができないそうです。だから、普通は球根を植えてチューリップを育てるのだそうです。

「アサガオは種から植えて、花が咲き終わった後に種ができたけど、どうしてチューリップは違うのかな？」子どもたちの中にそんな素朴な疑問「？（はてな）」が生まれたときがチャンスなのです。「チューリップは種ができないのか、確かめてみる？」と投げかけ、花が咲き終わった後のめしべを観察していくことで、子どもたちの主体的な学びはより一層深まっています。「？（はてな）」が知的的好奇心につながり、探求的な活動になっていくのです。そんな子どもたちの素朴な「？（はてな）」を大切に、子どもたちの知的な好奇心を広げていける、そんな直方東小学校でありたいと考えています。